

大谷中学校だより No.13

URL <http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/NC2/> 平成27年12月22日発行 文責：藤谷



2015年 どんな一年だったかな・・・？



間もなく今年も過ぎ去ろうとしています。それぞれにいろいろなことがあったことだと思いますが、少しふりかえてみてください。・・・

体はもちろん大きくなりました。少しまだ幼さを残す人もいますが、確実に精神的にも成長のあとを見せてくれ、先生方は喜んでいきます。みんなは着実に向上しています。

さて冬休みに入りますが、3年生にとっては、今年の冬休みは今までと少しちがってきます。クリスマスやお正月など楽しいこともたくさんあるでしょうが、うかれてばかりはいられません。年が明けると進路決定の大切な時期をむかえます。「すべきことはしっかりやる！」毎日の学習時間をきっちり確保してください。

1・2年生は学習と部活動の両立が求められています。いつまでも新人の気分で練習しては勝てません。練習の質や量をかけて最強のチームに仕上げましょう。

貴重な時間

校長 濱 育代

二学期も後わずかとなりました。9月5日の小中合同運動会から始まって、塩PRを目的に取り組んだ3年生の修学旅行や、平成28年度開校に向けての規約審議をおこなった10月の臨時PTA総会、ぬかるんだ田んぼで親も子も、泥んこになって行った黒米の稲刈り、16人の力が結集した文化祭、涙する観客もいた地区文化祭での生徒の演劇披露、受験という言葉を最大限に意識した高校説明会。気力とかけ声はあっても、教職員の体力が左右したためか、生徒に全敗した校内バレーボール大会。そして、本日の総合的な学習の時間発表会・・・・・・・・・・

常に、生徒の発達段階や自主性、個人の想いや学級としてつきたい力などを、日々考え努力している教職員。そんな教職員（学校）や生徒たちに寄り添い、応援し続けて下さる保護者の皆様方。職場体験や交流学習、何回も何回もインタビューに行かせて頂いたり学校に来て下さった町の先生方。「学校の子どもたちは地域の宝」と、いつも応援して下さる公民館や各種団体の皆様方・・・・・・・・・・二学期を終える今、感謝の気持ちでいっぱいです。

校舎建設に伴っての小学校との協同生活では、おもいきりの活動にも制約が生じ、やり難かった部分も多かったはずですが、でも、教職員も生徒たちも工夫し、よく乗り切っていました。それが小中学校教職員相互の話し合いや連携という、来年度につながる準備にもなっていったようでした。毎日毎日が貴重な時間の二学期でした。

二学期からスタートした中学生の朝放送。先生方の楽しみの一つになっています。開始した目的は、他者を意識してはっきりと話せるようになるろう・用意された台本ではなく、自力で構成を考え、話題性に富んだ話しをしよう。3文→5文→7文と人前で話せる力をつけていこうという点がめあてでしたが、先生方の予想を上回る成果を生徒たちは出しています。「今から朝の放送を始めます」という声が響くと、職員室の教職員は仕事の手を止め、放送に聞き入っています。そして「○○さんもやるもんだなあ。タイムリーな話題をよく考えてきたもんだ」とか「朝、新聞を読んできたから言える内容だったなあ。放送するようになってから、新聞を読む子が増えたような気がする」とか「後一言、自分の考えも添えられたら完璧だったのに。でも、学級朝会で思いっきり褒めてやろう」と、職員室はその日の放送の話題で盛り上がります。これもまた、朝のエネルギーの出る貴重な時間になっています。

年の暮れになって、指で数えられるほどに残りが少なくなった時期のことを「数え日」と言います。3年生にとっては、受験まで後わずかです。小中一貫教育開始までも同様です。この数え日の貴重な一日一日を大切にしながら、確実に進んでいきたいと思えます。年の瀬は「年の湊」とも言います。希望をいっぱい積み込んで、平成27年という湊を離れ、どうぞ良い年をお迎え下さい。



スプールの会 読み聞かせ

表彰 こんなにたくさんの方が表彰されました。おめでとう！！

第38回JAバンク石川「くらしの絵」コンクール

県知事賞 3年 井上

親子の架け橋一筆啓上「親子の手紙」

入選 2年 金田奈、友美

市読書感想文コンクール

入選 2年 浦 金田奈 3年 宮前龍

第35回石川県児童生徒俳句大会

佳作 1年 宮前紗

第18回おじいちゃんおばあちゃんの似顔絵コンクール

銅賞 2年 濱

珠洲市防火協会コンクール

銅賞 1年 國永 佳作 2年 浦

珠洲市子ども習字展

入選 1年 國永 2年 金田奈 3年 井上

珠洲市子ども美術展

入選 1年 宮前紗 2年 吉田 浦 3年 宮前龍

珠洲漢字博士コンテスト

認定 3年 井上 亀山 堀田 宮前龍 森本

珠洲計算博士コンテスト

認定 3年 井上 亀山 堀田 宮前龍

全国中学校人権作文コンテスト

地区審査会優秀賞 2年 金田奈

第42回珠洲市俳句・短歌大会

3位 1年 宮前紗 2年 吉岡



和太鼓 倭

8日（火）にラポルトすず大ホールで伝統文化鑑賞事業として全国的に有名な『倭』による和太鼓が開催され、市内の中学生全員が鑑賞しました。お腹に響き渡るような迫力、演出に感動してきました。代表が舞台にあがり、一緒に太鼓を打つ場面もありました。



学力テスト(冬休み明けテスト)に向けて

1月18日(月)・19日(火)に学力テスト・冬休み明けテストが行われます。3年生にとっては、進学の見込みを決める際の大きな資料となる重要なテストです。三者面談でお話があることと思いますが、3年生にとっては冬休みが受験を左右する大切な時間となります。冒頭に書きましたが、今年の正月はないものと思っております。受験に全力を傾けて自分の本当に行きたい高校に入学するために本気で勉強しましょう。そのための大切な第一歩が冬休みです。冬休みの過ごし方で大きく結果が変わります。

1・2年生も冬休みの学習の様子が問われるテストになります。だらだらと過ごしやすい時間ですが計画を立ててコツコツと積み上げましょう。スキー体験学習に行く直前のテストです。しっかり取り組んで、楽しくスキーをしてきましょう。

冬休みの間に苦手教科の学習を完全にしておこう!!

勉強をする中で、わからないことが出てくると思います。生徒アンケートを見ると、苦手教科やわからないところをそのままにしている人がいます。わからないままにしておくことは解決ではありません。学習したページを探してみたり、先生に問い合わせしてみたりして、分からない部分を少しでも小さくしていきましょう。

そのために**冬休みの補習**を設定してあります。普段聞けないことにじっくり取り組んで苦手教科を克服しましょう。是非とも学校へ来て、先生方に質問をしてください。待っています。

1月行事予定		
1日	金	元旦
4日	月	仕事始め
8日	金	始業式 書初め大会 安全点検
11日	月	成人の日
12日	火	生徒集会
13日	水	小中合同集会
14日	木	生徒会集会 避難訓練
16日	金	いじめのない学校づくり子ども会議 (森本・井上)
17日	土	全能登バスケ田鶴浜大会 18日まで 第41回珠洲市民百人一首かるた大会
18日	月	3年学力テスト 1・2年冬休み明けテスト
19日	火	3年学力テスト 1・2年冬休み明けテスト 集金日
23日	土	英検(希望者)
25日	月	いしかわ読書の日
26日	火	スキー体験学習(白山一里野) 28日まで

校内バレーボール大会

校内バレーボール大会は、3チームによるリーグ戦で行われました。接戦の連続で大いに盛り上がり、その結果Cチームが優勝しました。ラリーもかなり続いたし、3段攻撃でスパイクも見られました。また、ボールを最後まで追いかけてやめたあきらめないプレーも随所に見られました。何よりみんなで声を出して楽しい雰囲気をつくろうという姿勢がよいなあと思いました。

亀山さんから、給食に野菜やリンゴいただきました。ありがとうございます。



ホームページをご覧ください!!

珠洲市立大谷中学校のネットコムを見れば、色んな行事や活動の様子が見れますよ。保護者の皆さん見えますか? 毎月、ホームページを更新し新しい話題や情報が掲載されています。ぜひご覧になってください。いますぐ 珠洲市立大谷中学校で検索



みんなで築こう 人権の世紀 ~考えよう 相手の気持ち 育てよう 思いやりの心~

「人権の世紀」といわれる21世紀に入って既に10年以上が経過しました。この間、人権尊重思想の普及高揚のため人権擁護活動が行われてきました。しかし、いまだに、物質的な豊かさの追求に重きを置き、心の豊かさが大切にされない風潮、あるいは、他人への思いやりの心が希薄で、自己の権利のみを主張する傾向が見受けられ、このような状況が様々な人権侵害を発生させる大きな要因の一つとなっています。特に、最近では、いじめや体罰、児童虐待などといった子どもに関する人権問題、インターネット上の誹謗中傷、プライバシー侵害といった人権問題が起きています。

そこで、大谷中では、道徳の時間を使ってこのような問題について考えました。これからも一人一人が、相手の気持ちを考えることや思いやることの大切さを身に付けてほしいと思います。

私たちは、人との関わりなしに生きていくことはできません。でも、実は好きな人、嫌いな人、ちよっと苦手な人など相手のことをいろいろ感じます。

好きな人とは仲良くなりたい、嫌いな人からは離れたいと思つのは自然な感情ですが、人との関わりを見ていくと、

その自然な感情だけでは、自分が見えてくると思っています。

クラスで一人になるのが怖くて、気の進まない仲間に入る。リーダー的な子の顔色を見て、その子の意見に沿うように心がける…。こうした関わりは、自分の気持ちを大事にするより相手に合わせることを優先してしまいます。そんなとき、苦しさやしんどさを感じながらも、私たちはなぜ自分の気持ちを置いてきぼりにしがちなのでしょうか。

みんなと違う考えを言ったり違う行動をしたりすると、勝手な人と思われ、勝手が悪い、その場の空気が読めない人と仲間外れにされかねないかと、不安になる人は少なくありません。その結果、自分の真の気持ちに向き合うことが難しくなるのです。

一方、相手の態度や言葉などに戸惑い、どう関わったらいいのか分からないうこともありません。

そんな勢いでいきなり怒りだしました。A君には時々こんな場面があり、みんなとコミュニケーションがとれませんが、「何でそうなるの」「分からない」「めんどくさい」と、みんなは次第にA君との距離をおくようになりました。でも、落ち着くとA君は勝手にほづきを決められたことが嫌だった」と怒った理由を話しました。

うことで学び合い、「ともに成長するチャンスがあると思います。それが同じ時代をともに生きることに、「ありがとう」の感謝の気持ちをもちましょう。(カワムセラー・中澤久子)

悩みや疑問を募集する欄には氏名や学年、連絡先を書き、〒920-8573 北陸中日新聞報道部N171E係へ。メールでもいいよ。

「違って当たり前前」を大切に

Sさんは掃除の時間に突っ立って何もしないA君に「掃いて」とほづきを渡しました。すると、A君は今にも飛びかかり

あなたも私も「世界にたったひとつのかけがえない「いのち」」です。違っていいし、違うことは当たり前です。違

人の気持ち 自分の気持ち



彼には彼なりの感じ方や伝え方があることが分かります。それがみんなと違うことを特別な目で見て排除しがちですが、その人の個性として向き合うことが大切です。どの人にも必ずその人なりのステキさがあります。その人のステキさを見つけ、幸せな気持ちで関われたらいいですね。

北陸中日新聞より素敵な文章を思い出したので皆さんに紹介します。

